

背景

RIKISHI ガイディングシースは当院で開発された浅大腿動脈(SFA)に対する順行性アプローチ専用のガイディングシースである。RIKISHI は通常のシースを使用した同側順行、クロスオーバーアプローチに比べ、SFA へのガイドワイヤーをはじめとしたデバイス挿入において強力なバックアップを提供することが臨床上判明しているが実験的に証明した報告はない。本研究では SFA 起始部からの閉塞病変に対して、RIKISHI と通常のシースを用いた同側順行、クロスオーバーにおけるガイドワイヤーの穿通力を検討した。

方法

シリコン製模擬血管を作製し、サイドホールシースを使用した場合を A 群、同側順行を B 群、クロスオーバーを C 群とし、仮想 SFA 入口部におけるマイクロカテーテルサポート下でのガイドワイヤーによる仮想病変への荷重を測定した。

結果

A 群は平均 17.3g、B 群は 8.9g、C 群 6.3g と有意に A 群での仮想病変に対する荷重は大きかった。

結語

サイドホールシース RIKISHI は SFA 入口部病変に対してガイドワイヤーの穿通力を効率的に伝えることができた。

